

---

帰ってきた新一・・・

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

帰ってきた新一・・・

### 【Nコード】

N8397M

### 【作者名】

### 【あらすじ】

組織を壊滅後のお話です。

工藤新一の選択した相手は。。。。

ただいま

意味わかんない！！！！！！

新一は帰ってきた！

でも、、、、、、、、

そこに私の居場所はなかった。

新「蘭、らんー！！ただいま！帰ってきたんだ、待っていてくれてありがとな、それじゃ、またなあ！」

蘭「えッ？新一！新一ーッ！」

なにそれ、、、、  
それだけ？

新一はそれだけ言うとかささと帰って行ってしまった！

感動の再会を期待してたのに、、、、

いっぱい待ったのに  
ずっとずーっと会いたかったんだよ、、、、  
何があったのか話してもくれないの？

新一は？

どおして？

『待つてくれ』っていったのに  
そんな軽いものだったの？

私が期待しすぎてたの？

納得できないから、

ちゃんと説明してもらわなきゃ！何があったのかも聞いてないもん！

ピンポーン ピンポーン

蘭「新一ーッ」

昨日の新一の態度に納得のいかなかった蘭は工藤邸まで来ていた

いないのかな？

志「はいッ」

、、、、カチャ

蘭「え、、、、誰？」

志「こんにちは。何か御用？」

蘭「あ、あなた誰なの？どおして？新一は？」

志「私は志保よ！新一ね、呼んでくるわ、待ってて」

蘭を玄関に一人のこし新一を呼びに行ってしまった、、

蘭は新一ではなく志保ができた事でかなりパニックになり  
どおして？なんで？どおゆう関係？などと蘭頭のなかはハテナマー  
クでいっぱいだった

新一は？（後書き）

まだ続きます。

## 迷惑なの

誰なのよ？

蘭が考えこんでいると家の奥で新一と志保の声が少し聞こえてきた  
志「あなたにお客様よ！」

新「客？服部か？」

志「違うわ、蘭さんよ」

新「蘭？なんでまた？」

志「私に聞かないで！早く行ってあげなさいよ！」

新「わーっ たよ！」

蘭（え？、、、、どーして私の名前知ってるの？なんか、迷惑なのかな？）

私名前ゆったつけ？などと考えていると奥から少し面倒臭さそうに歩いてくる新一がみえた。

新「よお蘭！どおしたんだ？」

蘭「ちよつと話したくて、、、、」

新「話しか、長くなるのか？」

蘭「うゝ、うんゝゝ、」

（ダメなのかな？）

新「じゃあ中で話すか？」

蘭「いいの？」

新「ああ」



## 迷惑なの（後書き）

ここまで読んでくれてありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

## 知りたい（前書き）

読みにくくてすみません？

知りたい

蘭「おじゃまします」

蘭はおそろおそろ工藤邸に入っていったそこは蘭が来ていた時より手入れがいきとどいて綺麗だった

リビングのソファアーに座ると見計らうように煎れたてらしいコーヒーが運ばれてきた

志「どうぞ」

蘭「どうも」

新「サンキュー！」

コーヒーを出すと志保はキッチンに帰って行った

蘭（今までは私がしてたのに、、私お客さんなんだ、、）

キッチンの方に消えていく志保を羨ましそうに眺めていた

新「蘭、話してなんなんだ？」

蘭「ちょっと待って！その前に一つ聞きたいんだけど、志保さん？彼女は新一の彼女なの？」

新「彼女じゃないぜ、」

この時蘭は新一の意味深な笑いを見逃していた

蘭（よかった、彼女じゃないんだ！）「さっき話してるの少し聞こえたんだけど、どおして私の名前知ってたの？」

新「さあ？母さんに教えられたんじゃないか？母さんとアルバム見てたしな！」

蘭「そ、そおなんだ！」

（アルバム？なんで新一のお母さんと見てたんだろあ？）

新一のお母さんとアルバムを見てる事は少し引がかかったが『彼女じゃない』と言う新一の返答に少し安心して次の質問をはじめた

蘭「あ、聞きたい事があつて来たんだった！新一これからどうするの？あと、、忙しかった事件はどんな事件だったの？」

少し空気が重くなる

一瞬が長い沈黙に感じられた、

新一が重たい口を開いた

新「蘭、、これから探偵業に専念したいんだ、事件の事は蘭には関係ないから話せない」

蘭「え、、、、？」

蘭は目が点になっていた、今までどんな些細な事件でも事細かに説明してくれていた新一がそんな事を言うなんて微塵も思っていないかった、ましてずっと心配しながら待っていた人に言う言葉ではない

蘭「待ってたのに！ずっと心配してたのに、少しくらい教えてくれないじゃない！！！」

蘭は爆発した、、、

新「落ち着けよ、心配かけて悪かったよ、『待ってくれ』って言うて蘭に重荷をせおわしちまったのもわかってる、だから『死んでも帰る』ってコナンの坊主にも頼んだんだ」

蘭「じゃあ、、、だから、ただいまっていったろ？」

新一は蘭の言葉に被せて喋ってきた約束はもう守ったと、もう待っている必要はない事を強調するように

## 変化（前書き）

遅くなつてすみません！

んー、これからどおしよお・・・

## 変化

離れていた間に新一は随分と変わってしまったような、複雑さでな  
んとも言えない気持ちだった、、  
沈黙が続いて部屋には重たい空気が立ち込めていた

蘭「確かに『ただいま』とは言われたけど、どおして？関係なくは  
ないんじゃない？前はどんなに小さい事件でも話してくれた！」

新「前は話しすぎてたんだよ、」

蘭「そお、、なの？」

（私は新一の事全部知りたいのに）

「志保ちゃん！ただいま」

パタパタ、、パタッ

志「お帰りなさい、お母さん！」

新「母さん、早かったな？」

有「新ちゃんいたの？志保ちゃんいないとつまらないから帰ってき  
ちゃった フフ」

新「母さんはほんとに志保大好きだな」

有「あたり前じゃないの　こんな可愛娘どこ探してもいないじゃないの」

新「悪かったな、可愛くねー息子で！」

有「あら、新ちゃんすねちゃったの？可愛　アハハ」

志「はい、お母さんアイスコーヒーです。暑かったでしょ？」

有「ありがとう　本気が利くわあ」

新「当たり前だろ！」

蘭は三人の話を聞いていて疑問が生まれていた

有「あー！蘭ちゃん！いらっしやい　久しぶりね」

蘭「おじゃましてます、」

（会話に入れなかった、　有希子さん帰ってきてたんだ？お母さ



んとか娘とかどゆう事だろぉ？志保さんて一体……？)

蘭「あの、」

有「な〜に蘭ちゃん？」

新「どおした、蘭？」

蘭「その、志保さんがおしてて新一のお母さんを『お母さん』て呼んでるの？」

有「なあ〜んだ、そんな事？志保ちゃんは、私の娘になったのよ、ね〜新ちゃん！」

新「ああ」

有「蘭ちゃんより一つ年上なの、仲良くしてあげてね」

蘭「はい！（^^）」

有「新ちゃんてつくづくヘタレよね！やっとやっとなのよ！本当、長かったわ〜！」

蘭（ん？新一？？ヘタレって？）

志「改めて、工藤志保よ、ヨロシクね。」

蘭「毛利蘭です、こちらこそよろしく。しほさん。」

有「蘭ちゃん！ご飯食べてく？久しぶりに？」

蘭「はい！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8397m/>

---

帰ってきた新・・・

2011年9月9日17時14分発行